

事務事業評価表（令和2年度の実績評価）

【Do】 1. 事務事業の現状把握（その1）

手 段	①事務事業の概要（事務事業の全体像） 年齢や心身の状況等によって高齢者を分け隔てることなく、だれでも一緒に参加できる介護予防活動の地域展開を目指して、住民主体の通いの場などを支援する。このため介護予防に関するボランティア等の人材を育成するための講座の開催およびボランティア団体活動の支援を行う。	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順 介護予防ボランティア育成事業開催事務 ・ボランティア育成にかかる関係機関との連絡調整 ・介護予防ボランティア育成講座開催事務 ・シルバーリハビリ体操指導士会（ボランティア団体）の活動支援 ・シルバーリハビリ体操指導士会との連絡調整 ・シルバーリハビリ体操指導士3級講習会開催事務

①手段 （担当者の活動内容）	④活動指標 （活動量を表す指標）	単位	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度
			（実績）	（実績）	（計画）	（目標）	（目標）
介護予防ボランティア育成事業開催事務 シルバーリハビリ指導士会や講座受講者との 連絡調整 介護予防ボランティアの活動支援	シルバーリハビリ3級養成講習会開催数	回	6.00	5.00	5.00	5.00	5.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 （誰、何を対象にしているのか）	⑤対象指標 （対象の大きさを表す指標）	単位	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度
			（実績）	（実績）	（計画）	（目標）	（目標）
65歳以上の市民	65歳以上の人口	人	13,408.00	13,652.00	13,700.00	13,800.00	13,900.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 （この事業によって対象をどう変えるのか）	⑥成果指標 （対象における意図の達成度を表す指標）	単位	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度
			（実績）	（実績）	（計画）	（目標）	（目標）
シルバーリハビリ体操指導士や地域での介護 予防活動に意欲のある市民が、活動に必要な 知識や技術が習得できる。	シルバーリハビリ体操指導士3級養成者数	人	13.00	0.00	15.00	15.00	15.00
	介護予防自主運営教室開催回数	回	37.00	32.00	37.00	40.00	42.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

—1枚目—

事務事業名	介護予防ボランティア育成事業	事務事業No.	10601000996	所属課	高齢福祉課
(4) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？ 一般高齢者施策として開始された。介護保険法の改正により、地域介護予防活動支援事業として実施することになった。					
(5) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？ 特になし					

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評 価 項 目		
改革 改善 を行う	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？) ☒ 結びついている	介護予防に資するボランティアの育成・支援を行い、地域で積極的な介護予防活動を展開することは、高齢福祉の推進に結びついている。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？) (法定受託事業はその名称) ☒ 妥当である	介護保険法により市が行うのは妥当であり、シルバーリハビリ体操3級養成講習会は地域支援事業の一つとして市が行う事業である。
	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？) ☒ 向上余地がない	シルバーリハビリ体操3級養成講習会は定期的に開催しており、向上の余地はない。
	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？) ☒ 影響有	介護予防事業の衰退につながり、要介護者の増加につながる。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか？(市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ☒ 具体的な手段、事務事業名	☒ 余地がない 類似事業はない。
有効性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？) ☒ 削減余地がない	シルバーリハビリ体操指導士会についてはボランティア団体のため、事業費削減の余地はない。
	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？) ☒ 公正・公平である	シルバーリハビリ体操指導士3級構成講習会は、(R2年度は1級指導士の意向により実施していないが) 広報にて募集し公平である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																						
①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	②有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	⇒ シルバーリハビリ体操3級養成の講師である1級指導士と協議のうえ、令和2年度より2年に1回の講習会開催へと変更となった。シルバーリハビリ体操3級指導養成に向けて、講師となる1級指導者が増えるよう1級取得に向けて支援していく必要がある。																						
③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	④公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																							
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																						
☐ 終了 ☒ 継続 ☐ 改革改善を行う ☒ 現状維持 ☐ 廃止 ☐ 休止		(複数回答可) ☐ 目的の再設定 ☐ 効率性の改善 ☐ 有効性の改善 ☐ 公平性の改善 ☐ 統廃合ができる ☐ 連携ができる																						
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 シルバーリハビリ体操に関しては指導士の高齢化や養成数の減少など課題が多いため、県や県立健康プラザ担当者と養成等に関して協議が必要と考えられる。		<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○	×																				
	低下		×	×																				
		(6) 事務事業優先度評価結果																						
		成果優先度評価結果 ⑤																						

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 ☒ A A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 ☐ B B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 ☐